第5章

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

第５章　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

１　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査とは

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、一般高齢者、介護予防・日常生活支援総合事業対象者、要支援者を対象に、日常生活圏域ごとに、地域の抱える課題の特定（地域診断）に資することなどを目的として実施し、からだを動かすこと、食べること、毎日の生活、地域での活動、たすけあい、健康などに関する項目を調査するものである。

もともとは保険者が地域の実情を把握できるよう独自の調査を実施してきたが、これに資する調査票として第５期介護保険事業計画策定時から厚生労働省が調査票を示してきた。調査項目の選定が容易になると同時に、地域間で円滑に比較しやすくなり、第７期計画策定時には多くの自治体で実施されている状況である。

今回は、第８期計画に定めた介護予防等の「取組と目標」の進捗管理に、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を活用し取組の効果を把握する考え方や例が示されており、進捗管理に活用するとともに第９期の「取組と目標」の設定につなげることを目的としている。

２　調査項目

調査項目は必須項目とオプション項目で構成されており、構成は下表の通りになっている。

	設問内容	設問の意図（設問数）	オプション項目
①	あなたのご家族や生活状況について	基本情報（３）	・介護・介助が必要となった原因 ・主な介護・介助者の状況（高齢者との関係、年齢） ・住まいの状況
②	からだを動かすことについて	運動機能の低下・転倒リスク・閉じこもり傾向を把握（７）	・外出を控えているか否かとその理由 ・外出の際の交通手段
③	食べることについて	口腔機能の低下・低栄養の傾向を把握（４）	・むせることがあるか　・入れ歯の手入れ状況 ・口の渇きが気になるか　・体重の減少 ・歯磨きの状況　・共食の状況
④	毎日の生活について	認知機能の低下、IADLの低下把握（６）	・年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか等
⑤	地域での活動について	ボランティア等への参加状況・今後の参加意向（３）	
⑥	たすけあいについて	うつ傾向を把握（４）	・家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手 ・友人・知人と会う頻度 ・この１カ月、何人の友人・知人と会ったか
⑦	健康について	知的能動性・社会的役割・社会参加の状況等を把握（６）	
⑧	認知症にかかる相談窓口の把握について	認知症に関する相談窓口の認知状況を把握（２）	

３　「リストの発生状況」の把握

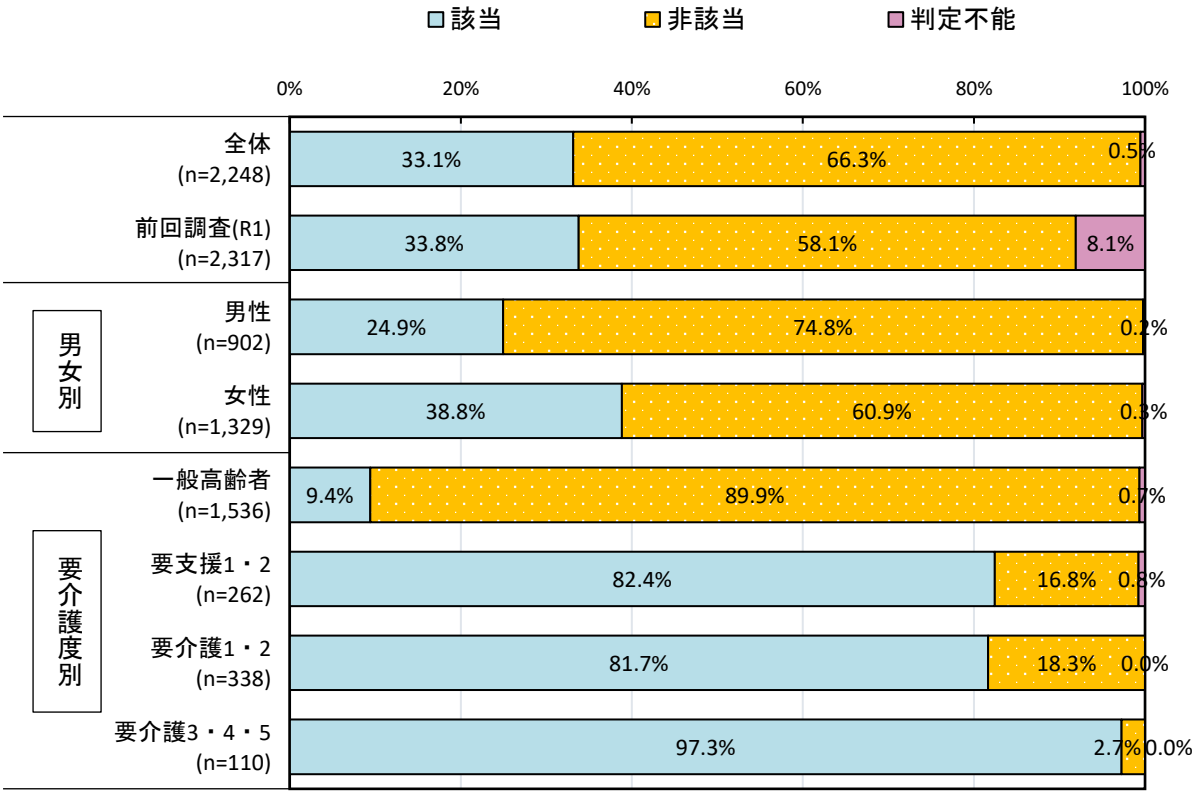
（１）基本チェックリストで設定したもの（「虚弱」高齢者を把握する項目

①運動器の機能低下

＜判定基準＞

問番号	設問内容	該当する選択肢	
2-（1）	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	3．できない	５問中３問該当で「該当」
2-（2）	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3．できない	
2-（3）	15分位続けて歩いていますか	3．できない	
2-（4）	過去1年間に転んだ経験がありますか	1．何度もある 2．1度ある	
2-（5）	転倒に対する不安は大きいですか	3．できない	

運動器の低下についてみると、全体では「該当」が 33.1%、「非該当」が 66.3%となっている。
前回調査と比較すると、「非該当」では前回調査より 8.2 ポイント増加している。
リスクの該当者について男女別にみると、男性が 24.9%、女性が 38.8%となっており、男性よりも女性の割合が高くなっている。
また要介護度別にみると、要介護 3・4・5 の割合が 97.3%で最も高くなっている。



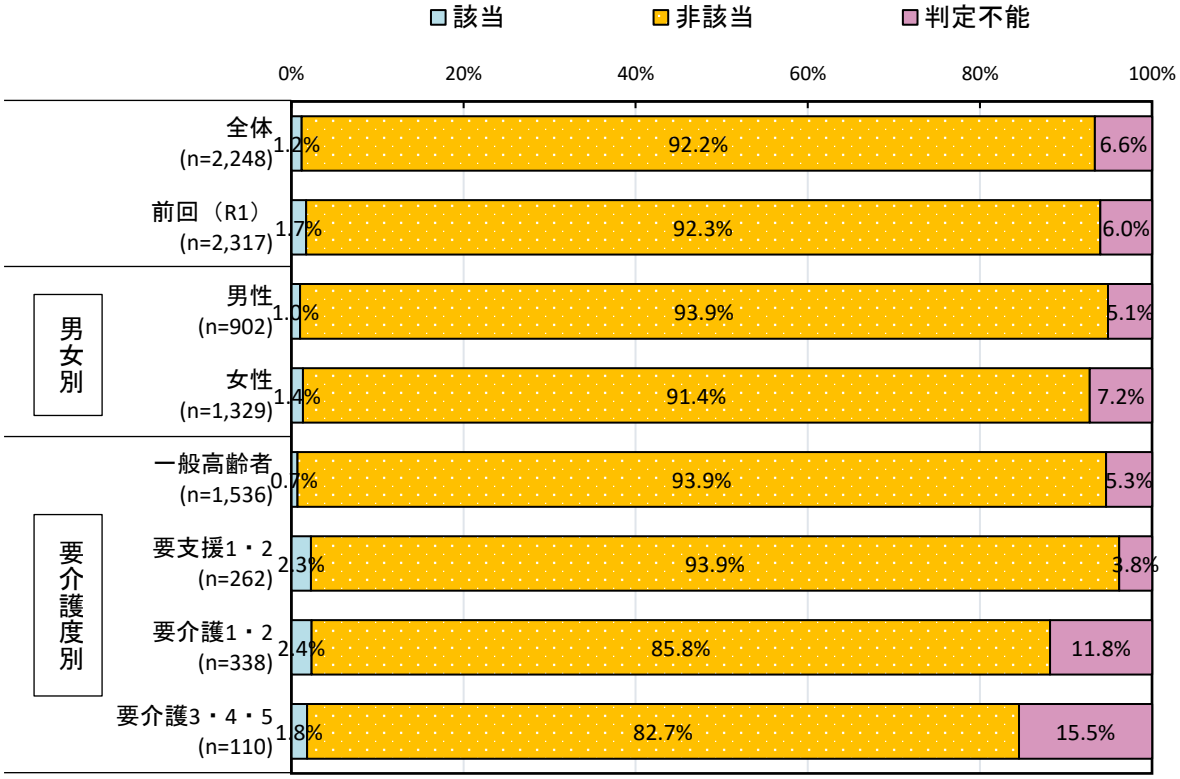
②低栄養の傾向

＜判定基準＞

問番号	設問内容	該当する選択肢	
3-（1）	身長・体重	BMI※18.5以下	2問該当で「該当」
3-（7）	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1．減少があった	

$$\text{BMI※} = \frac{\text{体重(kg)}}{\text{身長(m)} \times \text{身長(m)}}$$

低栄養の傾向についてみると、全体では「該当」が 1.2%、「非該当」が 92.2%となっている。
前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。
リスクの該当者について男女別にみると、男性が 1.0%、女性が 1.4%となっており、男性よりも女性の割合がやや高くなっている。
また要介護度別にみると、要介護 1・2 の割合が 2.4%で最も高くなっている。

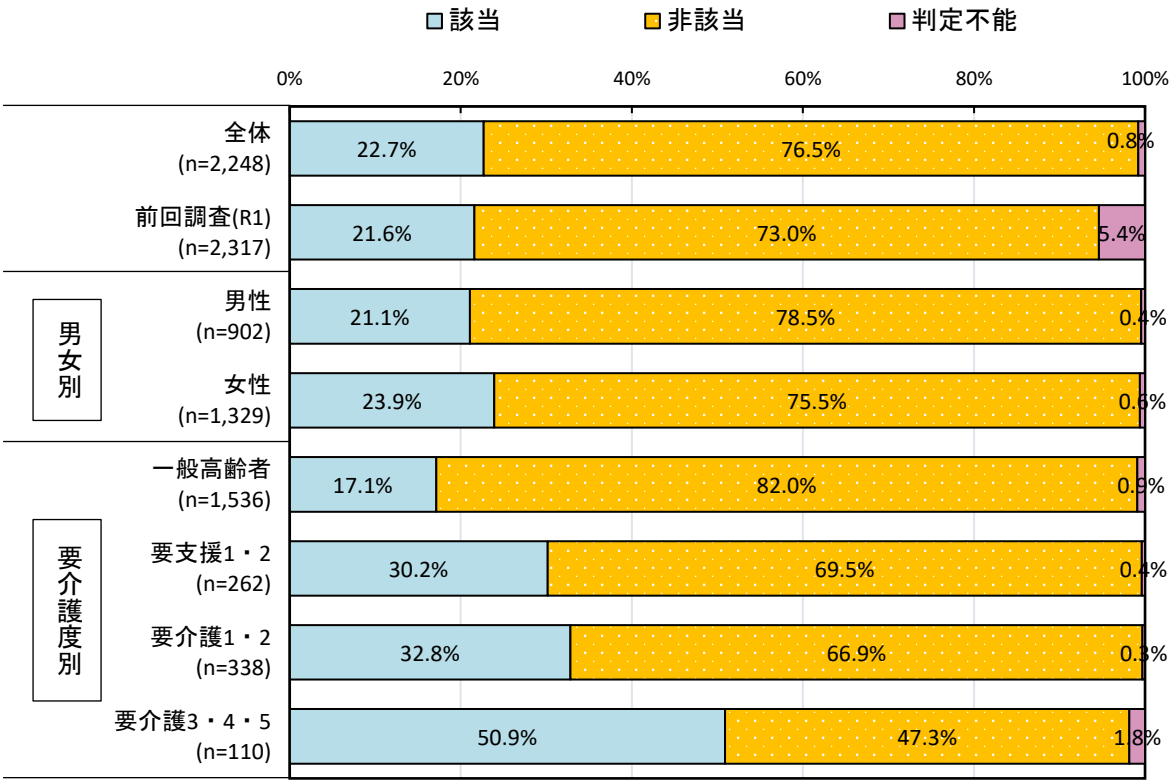


③口腔機能の低下

＜判定基準＞

問番号	設問内容	該当する選択肢	
3-(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい	3問中2問該当で「該当」
3-(3)	お茶やお汁物等でむせることがありますか	1. はい	
3-(4)	口の渇きが気になりますか	1. はい	

口腔機能の低下についてみると、全体では「該当」が 22.7%、「非該当」が 76.5%となっている。
前回調査と比較すると、「非該当」では前回調査より 3.5 ポイント増加している。
リスクの該当者について男女別にみると、男性が 21.1%、女性が 23.9%となっており、男性よりも女性の割合がやや高くなっている。
また要介護度別にみると、要介護 3・4・5 の割合が 50.9%で最も高くなっている。

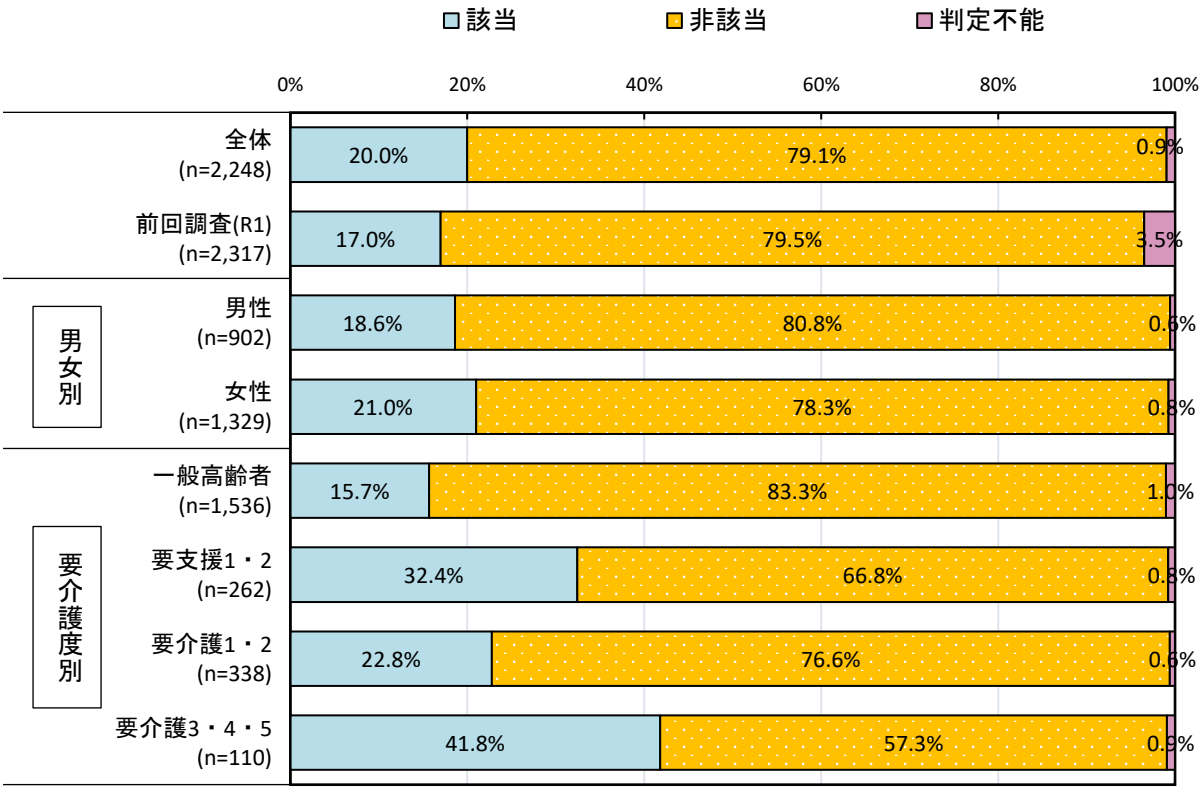


④閉じこもり傾向

＜判定基準＞

問番号	設問内容	該当する選択肢
2-(6)	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

閉じこもり傾向についてみると、全体では「該当」が 20.0%、「非該当」が 79.1%となっている。
前回調査と比較すると、「該当」では前回調査より 3.0 ポイント増加している。
リスクの該当者について男女別にみると、男性が 18.6%、女性が 21.0%となっており、男性よりも女性の割合がやや高くなっている。
また要介護度別にみると、要介護 3・4・5 の割合が 41.8%で最も高くなっている。

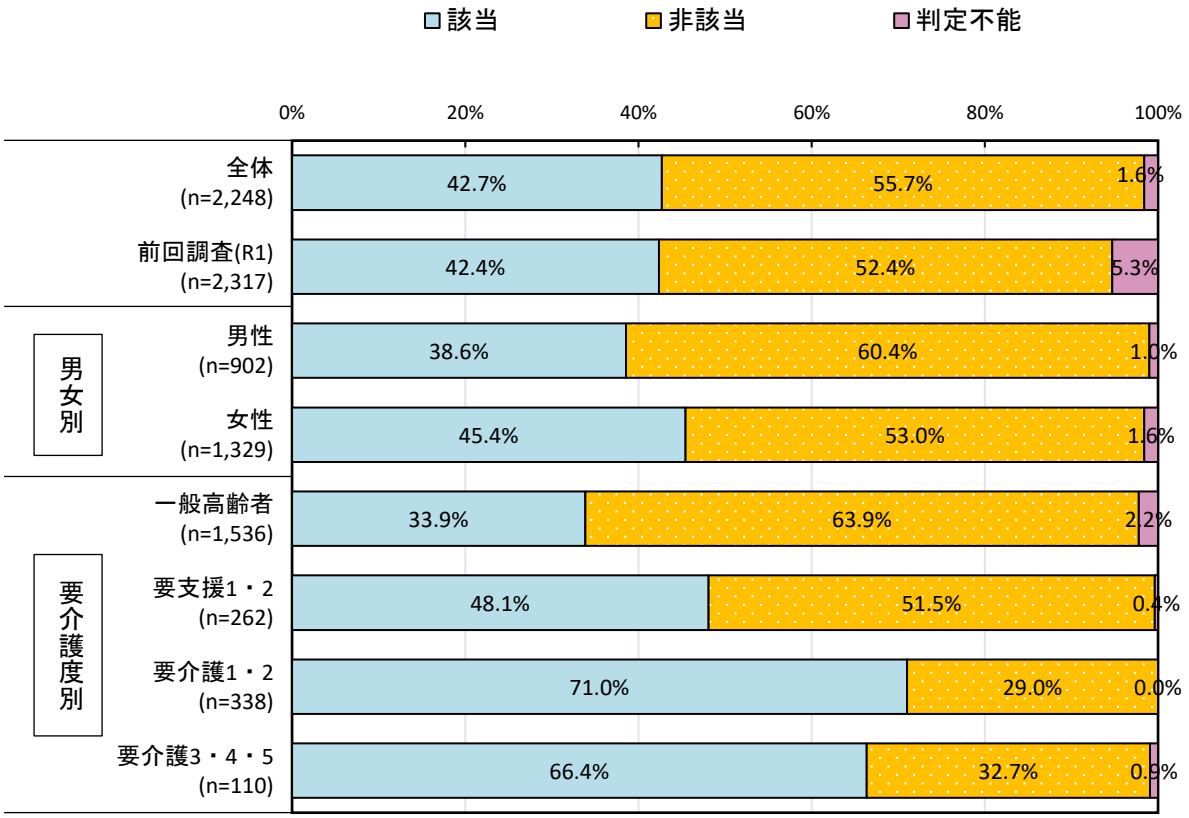


⑤認知機能の低下

＜判定基準＞

問番号	設問内容	該当する選択肢
4-（1）	物忘れが多いと感じますか	1．はい

認知機能の低下についてみると、全体では「該当」が 42.7%、「非該当」が 55.7%となっている。
前回調査と比較すると、「非該当」では前回調査より 3.3 ポイント増加している。
リスクの該当者について男女別にみると、男性が 38.6%、女性が 45.4%となっており、男性よりも女性の割合がやや高くなっている。
また要介護度別にみると、要介護 1・2 の割合が 71.0%で最も高くなっている。



⑥うつ予防・支援（うつ病スクリーニングの二質問法）

＜判定基準＞

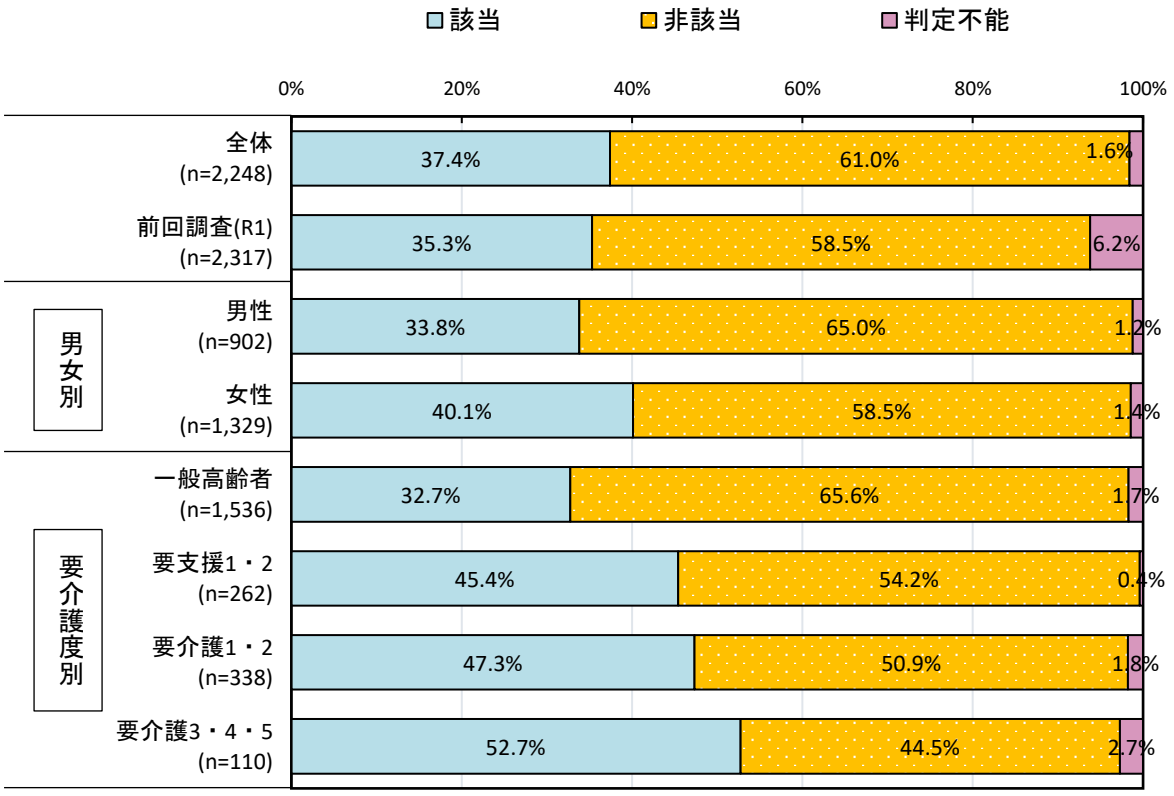
問番号	設問内容	該当する選択肢	
7-(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1．はい	1問該当で「該当」
7-(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1．はい	

うつ予防・支援（うつ病スクリーニングの二質問法）についてみると、全体では「該当」が 37.4%、「非該当」が 61.0%となっている。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。

リスクの該当者について男女別にみると、男性が 33.8%、女性が 40.1%となっており、男性よりも女性の割合が高くなっている。

また要介護度別にみると、要介護 3・4・5 の割合が 52.7%で最も高くなっている。



（２）その他

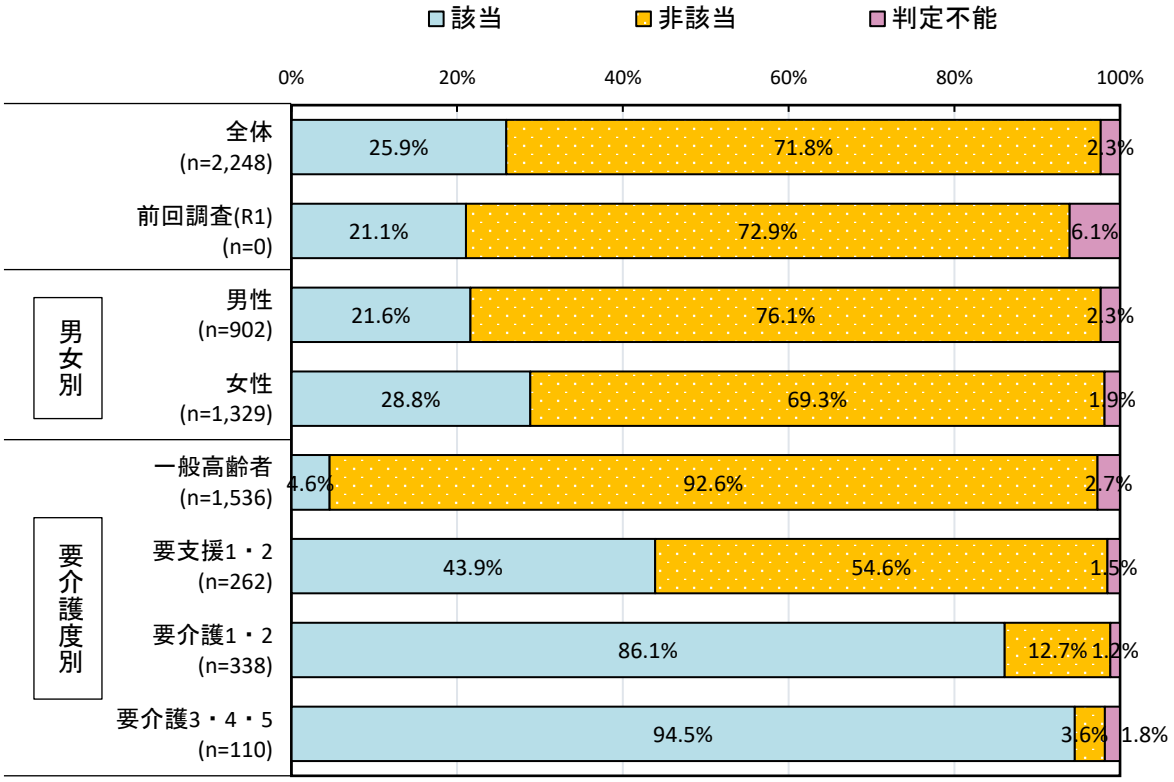
①IADL※の低下（手段的日常生活動作）

＜判定基準＞

問番号	設問内容	該当する選択肢	
4-(2)	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	3. できない	5問中3問該当で「該当」
4-(3)	自分で食品・日用品の買い物をしていますか	3. できない	
4-(4)	自分で食事の用意をしていますか	3. できない	
4-(5)	自分で請求書の支払いをしていますか	3. できない	
4-(6)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	3. できない	

※IADL（instrumental activities of daily living）とは、電話の使い方、買い物、家事、移動、外出、服薬の管理、金銭の管理など、日常生活動作（ADL：activities of daily living）ではとらえられない高次の生活機能の水準を測定するものをいう。

ＩＡＤＬの低下（手段的日常生活動作）についてみると、全体では「該当」が 25.9%、「非該当」が 71.8%となっている。
前回調査と比較すると、「該当」では前回調査より 4.8 ポイント増加している。
リスクの該当者について男女別にみると、男性が 21.6%、女性が 28.8%となっており、男性よりも女性の割合が高くなっている。
また要介護度別にみると、要介護 3・4・5 の割合が 94.5%で最も高くなっている。

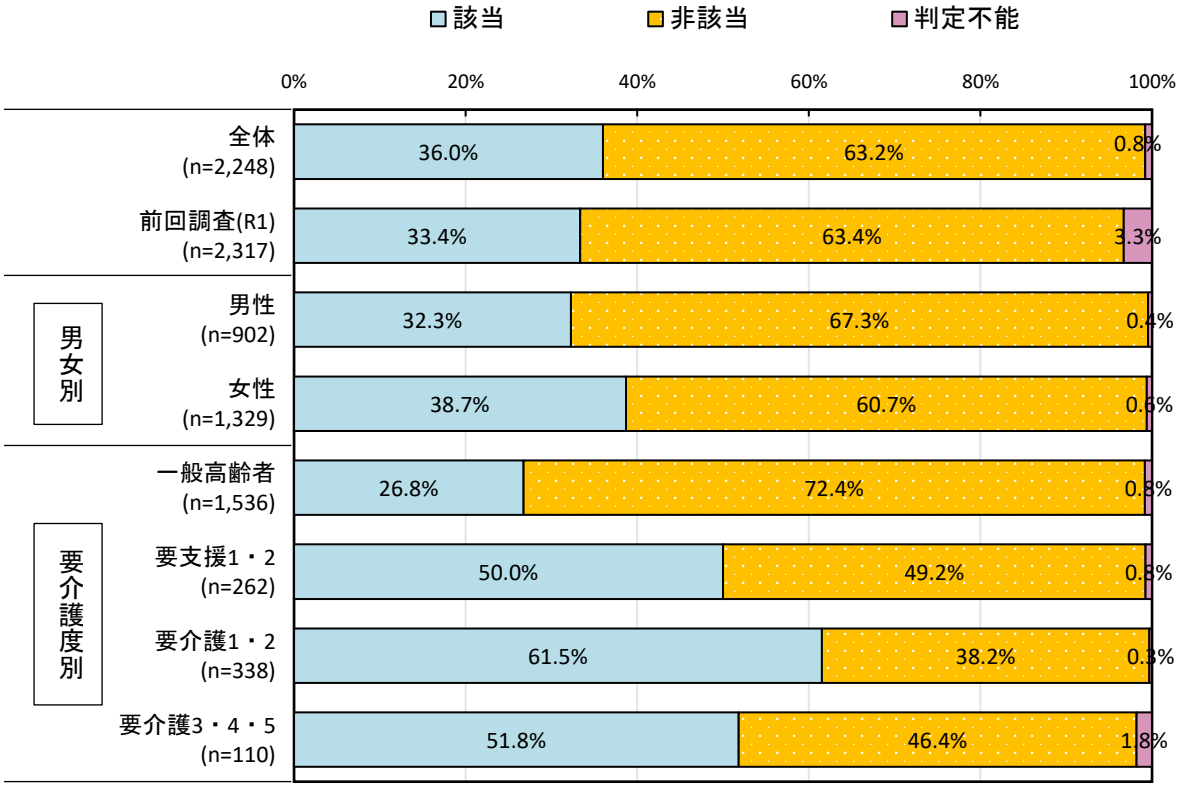


②転倒リスク

＜判定基準＞

問番号	設問内容	該当する選択肢
2-(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある

転倒リスクについてみると、全体では「該当」が 36.0%、「非該当」が 63.2%となっている。
前回調査と比較すると、大きな差異はみられない。
リスクの該当者について男女別にみると、男性が 32.3%、女性が 38.7%となっており、男性よりも女性の割合が高くなっている。
また要介護度別にみると、要介護 1・2 の割合が 61.5%で最も高くなっている。



4　「社会資源」等の把握

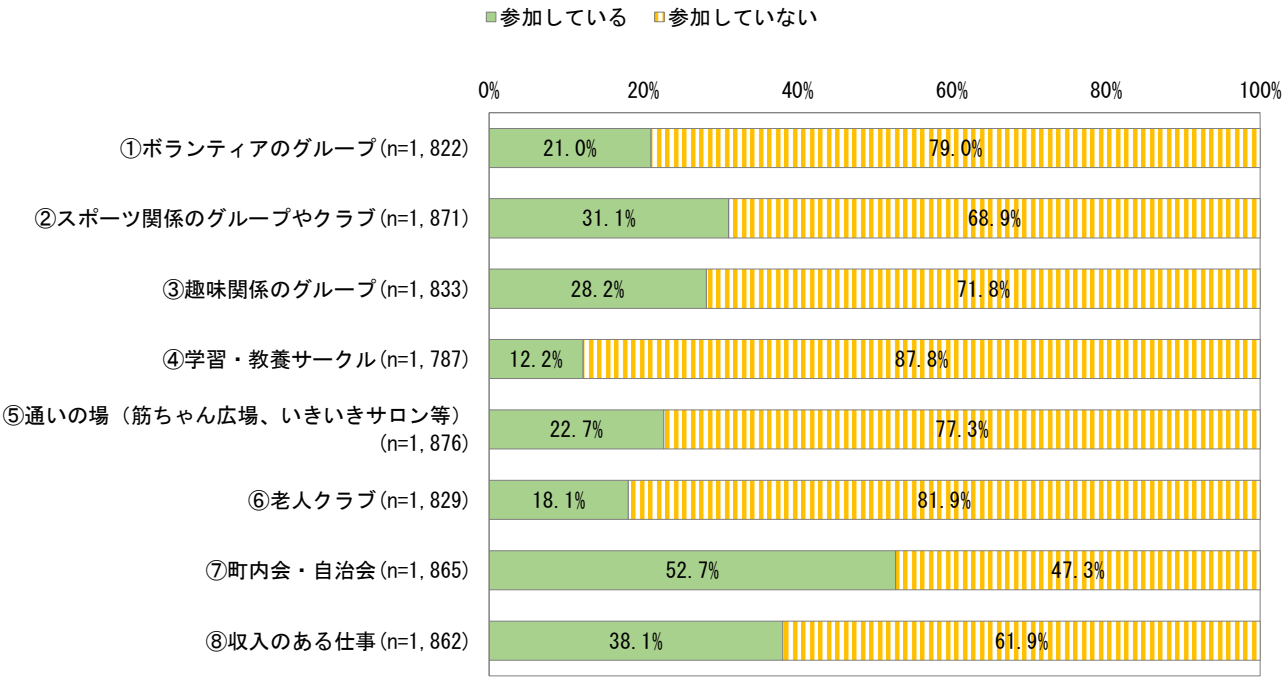
①ボランティア等への参加頻度

一般高齢者・在宅要介護（要支援）者調査

問5	設問内容		選択肢
（1）	次のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか ※①～⑧それぞれに回答してください	①ボランティアのグループ ②スポーツ関係のグループやクラブ ③趣味関係のグループ ④学習・教養サークル ⑤介護予防のための通いの場 ⑥老人クラブ ⑦町内会・自治会 ⑧収入のある仕事	1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない （1～5：参加している）

ボランティア等への参加頻度についてみると、「参加している」の割合が、⑦町内会・自治会が 52.7%と最も高く、次いで⑧収入のある仕事が 38.1%、②スポーツ関係のグループやクラブが 31.1%となっている。

一方、「参加していない」の割合が、④学習・教養サークルが 87.8%と最も高く、次いで⑥老人クラブが 81.9%、①ボランティアのグループが 79.0%となっている。

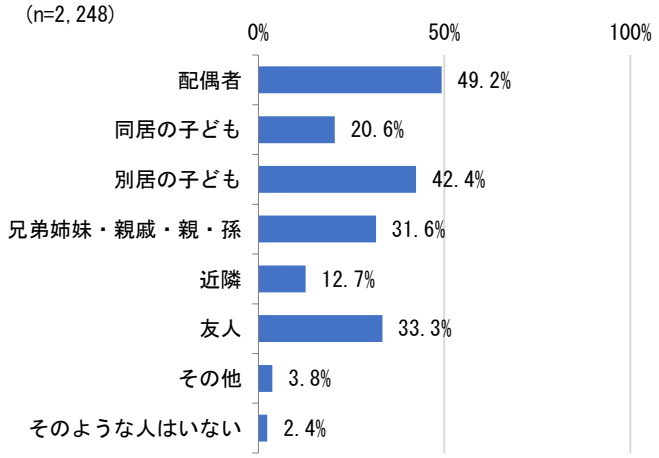


②たすけあいの状況

一般高齢者・在宅要介護（要支援）者調査

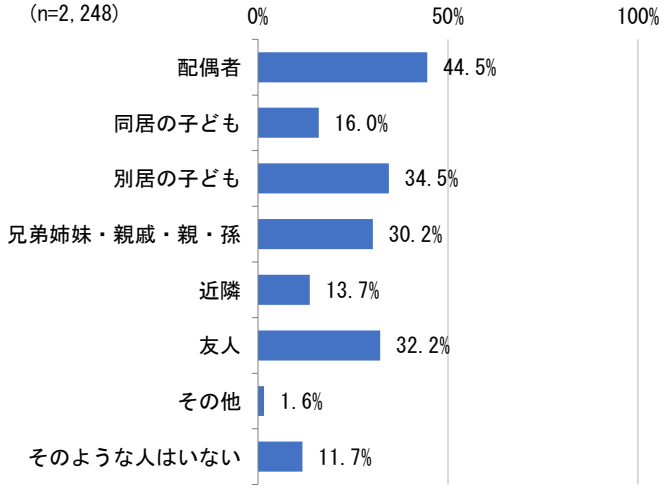
問6	設問内容	選択肢	
（1）	あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人	1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣 6. 友人 7. その他 8. そのような人はいない
（2）	反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人	1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣 6. 友人 7. その他 8. そのような人はいない
（3）	あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人	1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣 6. 友人 7. その他 8. そのような人はいない
（4）	反対に、看病や世話をしてあげる人	1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣 6. 友人 7. その他 8. そのような人はいない

（１）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人



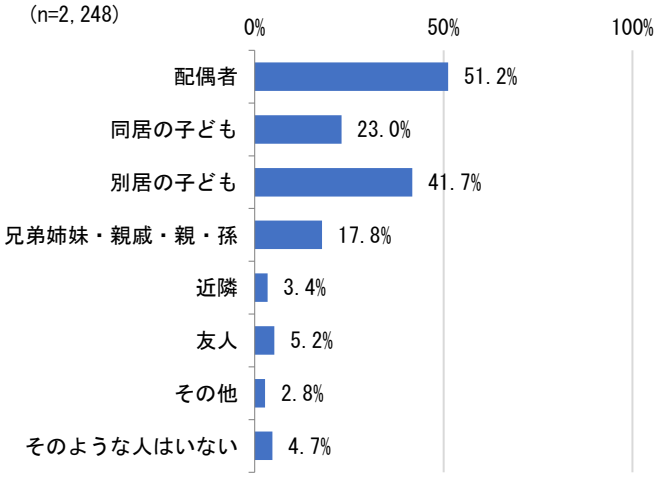
あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人の割合をみると、「1. 配偶者」が 49.2%と最も高く、次いで「3. 別居の子ども」が 42.4%、「友人」が 33.3%となっている。

（２）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人



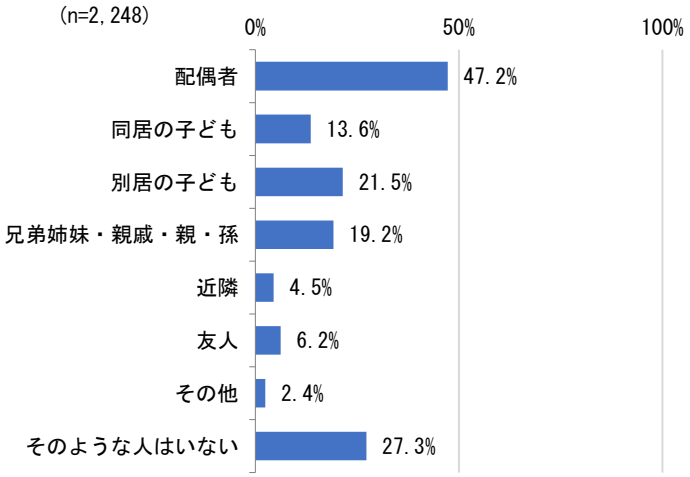
反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人の割合をみると、「1. 配偶者」が 44.5%と最も高く、次いで「3. 別居の子ども」が 34.5%、「友人」が 32.2%となっている。

（３）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人



あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人の割合をみると、「1. 配偶者」が 51.2%と最も高く、次いで「3. 別居の子ども」が 41.7%、「同居の子ども」が 23.0%となっている。

（３）反対に、看病や世話をしてあげる人

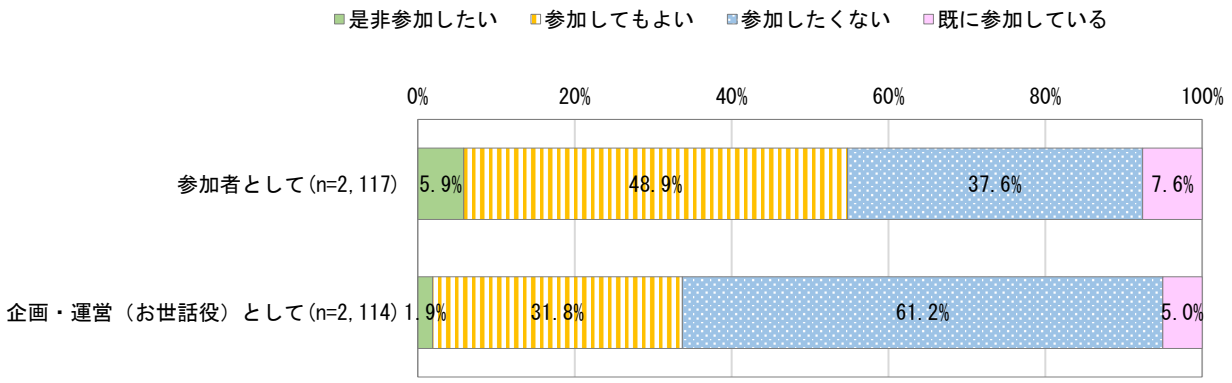


反対に、看病や世話をしてあげる人の割合をみると、「1. 配偶者」が 47.2%と最も高く、次いで「8. そのような人はいない」が 27.3%、「3. 別居の子ども」が 21.5%となっている。

③地域づくりの場への参加意向（参加者として／担い手として）

一般高齢者・在宅要介護（要支援）者調査

問5	設問内容	選択肢
（2）	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に***参加者として***参加してみたいと思いますか	1．是非参加したい 2．参加してもよい 3．参加したくない 4．既に参加している
（3）	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に***企画・運営（お世話役）***として参加してみたいと思いますか	1．是非参加したい 2．参加してもよい 3．参加したくない 4．既に参加している



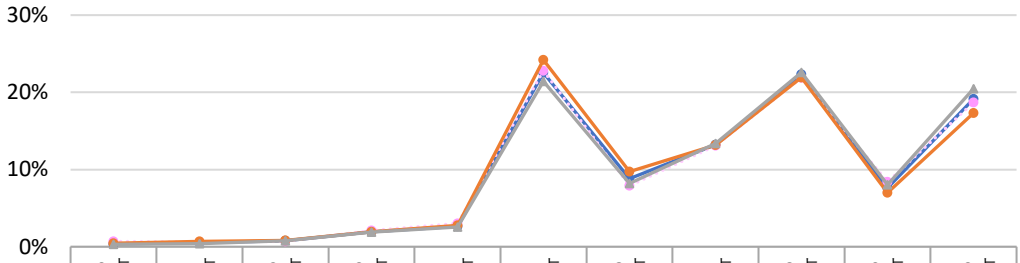
参加者としての参加意向をみると、「2．参加してもよい」が48.9%と最も高く、次いで「3．参加したくない」が37.6%、「4．既に参加している」が7.6%となっている。

一方で、企画・運営（お世話役として）の参加意向をみると、「3．参加したくない」が61.2%と最も高く、次いで「2．参加してもよい」が31.8%、「4．既に参加している」が5.0%となっている。

④主観的幸福感

問7	設問内容	選択肢
（2）	あなたは、現在どの程度幸せですか	※「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として記入 とても不幸 0点 1点 2点 3点 4点 5点 6点 7点 8点 9点 10点 とても幸せ

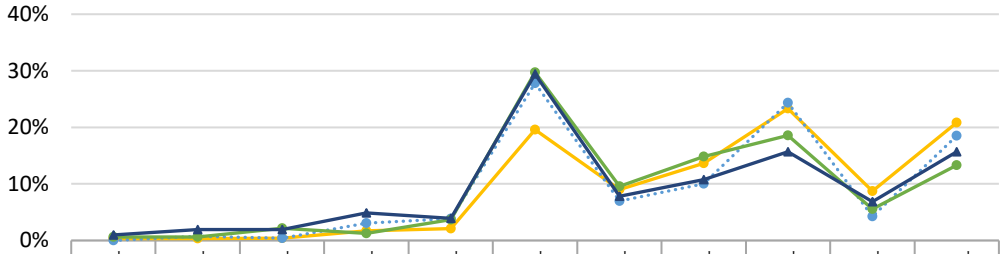
○前回比較、男女別



	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
全体(n=2,161)	0.4%	0.5%	0.8%	1.9%	2.6%	22.5%	8.8%	13.2%	22.4%	7.6%	19.2%
前回調査(n=2,146)	0.7%	0.6%	0.7%	2.1%	3.0%	22.8%	7.9%	13.1%	21.9%	8.4%	18.7%
男性(n=872)	0.5%	0.7%	0.8%	1.9%	2.8%	24.2%	9.7%	13.2%	21.9%	7.0%	17.3%
女性(n=1,280)	0.3%	0.4%	0.8%	1.9%	2.6%	21.4%	8.2%	13.4%	22.6%	8.0%	20.5%

平均値		
	全体：7.16点	前回調査：7.12点
	男性：7.02点 （対全体:−0.14点）	女性：7.25点 （対全体:+0.09点）

○要介護度別



	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
一般高齢者(n=1,475)	0.3%	0.3%	0.4%	1.7%	2.1%	19.6%	9.0%	13.6%	23.3%	8.7%	20.8%
要支援1・2(n=259)	0.0%	0.8%	0.4%	3.1%	3.9%	27.8%	6.9%	10.0%	24.3%	4.2%	18.5%
要介護1・2(n=323)	0.6%	0.6%	2.2%	1.2%	3.7%	29.7%	9.6%	14.9%	18.6%	5.6%	13.3%
要介護3・4・5(n=102)	1.0%	2.0%	2.0%	4.9%	3.9%	29.4%	7.8%	10.8%	15.7%	6.9%	15.7%

平均値		
	一般高齢者：7.36点 （対全体:+0.20点）	支援1･2：6.95点 （対全体:−0.21点）
	要介護1･2：6.66点 （対全体:−0.50点）	要介護3･4･5：6.50点 （対全体:−0.66点）

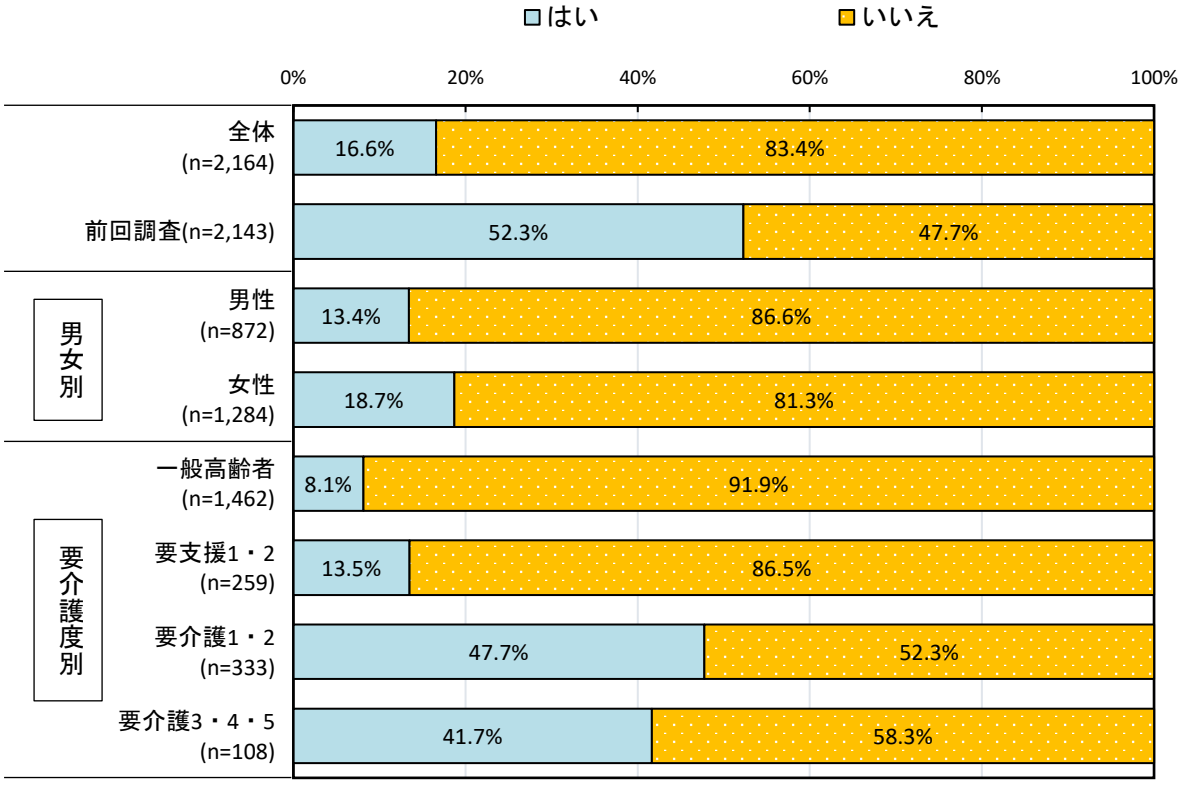
現在どの程度幸せであるかを、「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点として聞いたところ、全体の平均値は 7.16 点となった。
前回調査の平均値と比較すると、前回より+0.04 点となっている。
平均値について男女別にみると、男性よりも女性の値が高くなっている。同様に平均値について要介護度別にみると、一般高齢者の値が高くなっており、介護度が上がるにつれて平均値は低くなっている。

5　その他

①認知症の自覚症状及び家族の既往歴

一般高齢者・在宅要介護（要支援）者調査

問8	設問内容	選択肢
（1）	認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか	1. はい 2. いいえ

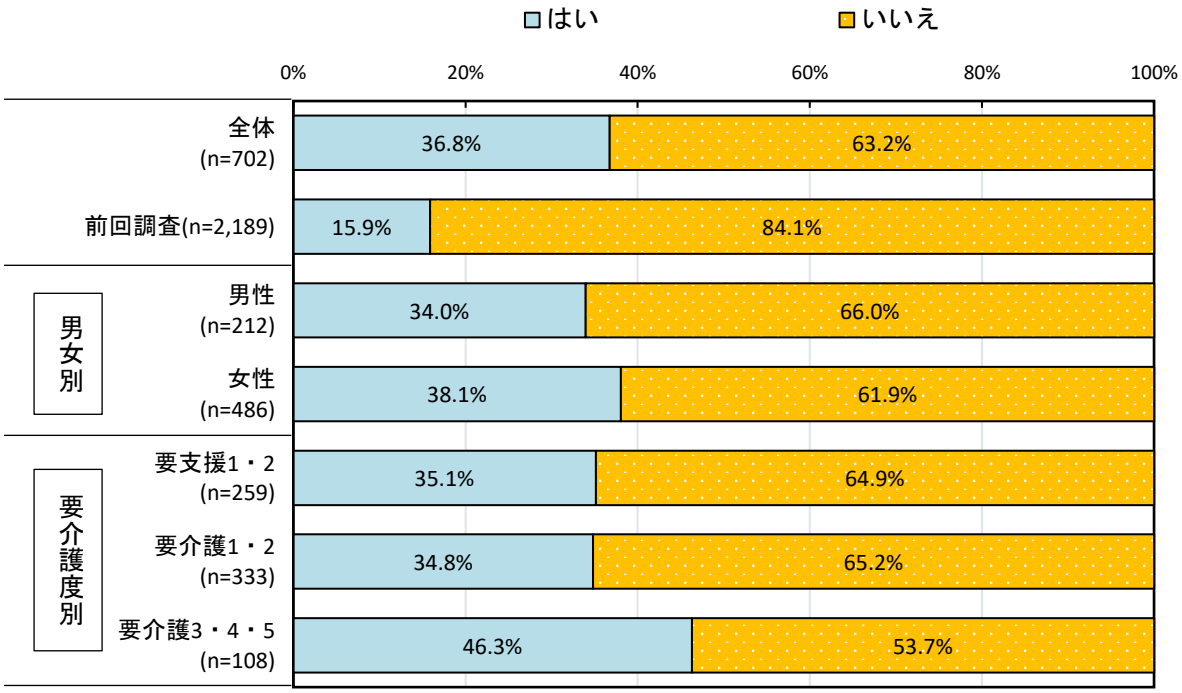


認知症の自覚症状及び家族の既往歴をみると、「1. はい」が 16.6%、「2. いいえ」が 83.4%となっている。
前回調査と比較すると、「1. はい」が 35.7 ポイント減少している。
「1. はい」とする割合について男女別にみると、男性よりも女性の割合が高くなっている。また、要介護度別にみると、要介護 1・2 の割合が最も高くなっている。

②認知症にかかる相談窓口の認知度

在宅要介護（要支援）者調査

問8	設問内容	選択肢
（2）	認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか	1. はい 2. いいえ



認知症にかかる相談窓口の認知度をみると、「1. はい」が 36.8%、「2. いいえ」が 63.2%となっている。
前回調査と比較すると、「1. はい」が 20.9 ポイント増加している。
「1. はい」とする割合について男女別にみると、男性よりも女性の割合が高くなっている。また、要介護度別にみると、要介護 3・4・5 の割合が最も高くなっている。